

東日本大震災
石巻市追悼式

10年の思い胸に 前へ歩む



東日本大震災から10年の3月11日、石巻市追悼式が同市開成のマルホンまきあーとテラス(市複合文化施設)で開かれました。遺族や関係者らが祭壇に献花し、復興にまい進した10年間を振り返りながら、地域の末永い安寧と震災の教訓を後世に伝えるため、前へ進むことを誓いました。亀山市長の式辞に続き、震災で妹を亡くした佐藤梨恵さんが遺族代表で追悼の言葉を述べ、「たくさんの涙を流したこの場所が、みんなの笑える場所になるように」と願いました。会場には式出席者に加え、献花に訪れた一般市民を含め548人が来場しました。

追悼のメッセージ

(3・11追悼式 式辞)

本日ここに、ご遺族の皆様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご参列を賜り、東日本大震災石巻市追悼式を執り行うに当たり、震災の犠牲となられた方々の御霊に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

10年前の今日、3月11日午後2時46分に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震と、その後に襲来した巨大大津波は、当地方に容赦なく襲い掛かり、3,600名を超える掛けがえのない尊い命が失われました。

失われた最愛のご家族、ご親族、ご友人への想いと皆様の深い悲しみは、震災から10年が経過した今でも薄れることなく、在りし日を偲ぶ思いは、より一層深くなっているものと拝察いたします。

震災の発生直後に駆け付け、自らの危険を顧みずに不眠不休で救命救助に携わった自衛隊、警察、消防、医療関係者の皆様そして消防団の皆様は、市民一同決して忘れることはありません。

また、日本全国や世界中から集結したボランティアの皆様による無私のご奉仕は、私たちが絶望の淵から這い上がる大きな力となり、心の支えとなりました。ここに改めて全市民を代表し謹んで御礼を申し上げます。

私たち石巻市民は、皆様から頂戴いたしましたご恩を生涯忘れることなく、後世に伝えてまいります。

震災からの10年は、ふるさと石巻の早期復興を目指し、住まいの再建や生業の確保を最優先に取り

組みながら、様々な事業を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされながらも、今年の1月には、復興のシンボルの一つであるマルホンまきあーとテラスも完成し、復興の完結にまた一歩近づくことができました。今後は、一部未完了となっており、社会インフラ整備の早期完成を目指すとともに、地域のコミュニティ再生、被災された方々の心のケアなどソフト面での支援を継続して実施してまいります。

震災の経験と教訓を後世に伝え、絶対に風化させることなく次の世代へと伝承していくことが、私たちの責務であると考えております。このことが、今後の防災の取組の指針となり、世界中のあらゆる災害から、人々の命が守られることを切に願います。

そして、石巻市の復興した姿を世界中の皆様にお見せすることで、震災の経験と教訓、感謝の心をお示しし、とどまることなく、次の新たなステージへと着実に歩みを進めてまいります。

結びに、震災の犠牲となられた方々の御霊がとこしえに安らかでありますことを、そして、今後のふるさと石巻の繁栄と安寧を見守りください。また、併せて、ご遺族の皆様のご平安を祈念いたしました。式辞といたします。

令和3年3月11日

石巻市長 亀山 紘

